

「森林の多面的機能」
解説シリーズ

第29回 教育機能 — 森林環境教育の推進 —
東北支所 大石 康彦

森林とわたしたち

私たちが持っている森林のイメージは様々だと思いますが、森林との関わりについてはどう受け止めているのでしょうか。小学生にたずねますと、半分以上が「わからない」などと回答します。子ども達が森に入る機会が少ないからなのでしょうか。日本は木材消費量が多い国の一つで、2003年には1人当たり1年間に約0.7立方mの木材（胸の高さの直径が約30cm、高さが約20mの立木1本に相当）を使っているのですが、その木材を供給してくれる森林と自分の関係がみえないということは不思議です。私たちが使う木材の多くが外国の森林から供給（2003年に日本国内で使用した木材の82%は輸入）されているために森の木を使っている実感が無いのかもしれませんが。以前の森林に関わる問題には地域の関係者だけで解決できるものが多かったのですが、20世紀末からは地球温暖化などあらゆる人々が理解し、考え、行動しなければ解決できない重要問題に立ち向かわなければならぬ時代になってきたようです。

森林環境教育

環境に関わる問題は社会全体で解決しなければならないという認識から、1975年の国際環境教育会議で採択されたベオグラード憲章は、環境教育の目標を「環境とそれに関わる諸問題に気づき、関心をもつとともに、当面する問題を解決したり、新しい問題の発生を未然に防止するために、個人および社会集団として必要な知識、技能、態度、意欲、実行力などを身につけた人々を育てること」としました。森林環境教育も、森林に関わる諸問題の解決や問題発生の未然防止をめざして人々を育てることを目標にするものと位置付けることができます。

森林の教育機能

森林に関わる問題に近づくためには、森林の姿や役割を理解することが基礎になります。森林は複雑な生態系であり、さらに水や大気の動きにより森林外の環境にもつながっています。森林はまた木材資源の供給や生活環境の保全などの働きから、人間社会にとって欠かせない存在でもあります。このような様々な森林の姿は、森林に関わる多くの問題の認識から理解、問題解決に向けた実行までつながる教育の素材です。このように森林環境教育の素材となる様々な姿を提供することが森林がもつ教育機能であるといえます。森林には木材生産や防災など多くの機能がありますが、教育機能は森林がそこにあるだけでは十分に発揮されないという特徴を持っています。つまり、指導者や学習活動プログラムが教育機能の発揮に重要な意味を持つのです。

教育機能の発揮

草木染め、キノコ採りや隠れ家づくりなどの森林体験学習に参加した小学5年生に「あなたと森林にはどんな関係がありますか」と質問した結果、「わからない」等の回答は活動前の54%から活動後には21%まで減少しました。衣食住をテーマとする森林体験学習によって多くの子どもが森林と自分の関わりを見いだすことができたのです。

では、森林の教育機能を十分に発揮させるためにどのような条件が必要でしょうか。指導者の育成や教材開発、教育の場としての森林の整備手法の開発が必要ですが、森林が発するメッセージを受け止め関心を持つために感性を活かす方法、さらに整理された知識につなげるための学習方法、また獲得した知識を基に諸問題について考え、その解決に向けた実行につなげるまでの活動プロセスなどの総合的な手法の開発も必要です。



秋の森で隠れ家づくりの後のお話
「森の木を使って家を作るといことは…」